ニレ科　ニレ属

オヒョウ　Ulmus laciniata

基礎情報

●形態　高さ 20m～25m、直径１m 程の落葉高木。樹皮は縦に浅く裂け、色は灰褐色。樹皮は非常に丈夫で、織物や縄の材料になる。
葉は、長さ７～15 ㎝、幅５～７㎝の倒広卵形、または長楕円形で２列に互生する。葉の先端が特徴的に３～５裂するか、裂けずに鋭くとがっている。葉の縁には重鋸歯がある。葉の色は濃緑色で短毛がありざらつく。
花は、４月の中旬頃葉の出る前に咲くが、地味で小さいのであまり目立たない。

●分布域　北海道、本州、四国、九州に分布しているが、とくに北海道に多く自生している。
小諸市内では、氷地区の風穴周辺に自生している。風穴を離れての自生の確認はない。

●保護の状況　長野県では、絶滅危惧種登録はないが、三重県、高知県では絶滅危惧種Ⅰ類に分類され、東京都、大阪府、奈良県、山口県、徳島県、愛媛県では絶滅危惧種Ⅱ類に分類されており、絶滅の危険が高い種に指定されている。
北海道では、オヒョウの樹皮がアイヌ民族のアットゥシという布の原材料になっていることから、苗木を養成し、育成する取り組みを進めている。

生育環境

涼しい地域で生育し、水はけのよい肥沃な場所を好むため、河川中上流部の河畔斜面に多く見られる。

生存を脅かす要因

森林伐採、シカの食害など。

（写真提供：柴平志保子）

出典：第４回全国風穴サミット in 信州小諸
小諸の花